

製品名: Bcl-10 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07498**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	BCL10
別名	BCL10; CIPER; CLAP; B-cell lymphoma/leukemia 10; B-cell CLL/lymphoma 10; Bcl-10; CARD-containing molecule enhancing NF-kappa-B; CARD-like apoptotic protein; hCLAP; CED-3/ICH-1 prodomain homologous E10-like regulator; CIPER; Cellular homolog
遺伝子 ID	8915.0
SwissProt ID	O95999
免疫原	抗血清はヒト BCL10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

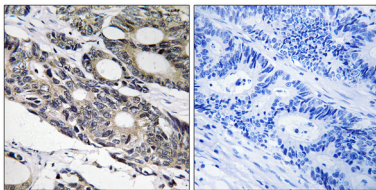
背景

この遺伝子は、粘膜関連リンパ組織 (MALT) リンパ腫の症例における転座により同定されました。この遺伝子によってコードされるタンパク質にはカスパーゼリクルートメントドメイン (CARD) が含まれており、アポトーシスを誘導し、NF- κ B を活性化することが示されています。このタンパク質は、NF- κ B シグナル伝達の上流調節因子として機能すると考えられている CARD9、10、11、および 14 などの他の CARD ドメイン含有タンパク質と相互作用することが報告されています。このタンパク質は、MALT リンパ腫で転座することが知られている別の遺伝子によってコードされるタンパク質 MALT1 と複合体を形成することがわかっています。MALT1 とこのタンパク質は NF- κ B の活性化において相乗作用を示すと考えられており、どちらか一方の制御不全が、悪性腫瘍につながる同じ病原性プロセスに寄与する可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2016 年 3 月],疾患: BCL10 に関連する染色体異常は、低悪性度粘膜関連リンパ組織 (MALT リンパ腫) で再発性である。転座は t(1;14)(p22;q32) である。BCL10/IgH 転座は BCL10 のコード領域をそのまま残すが、頻繁な BCL10 変異は、ヌクレオチド転移を引き起こす Ig 体細胞超変異機構に起因する可能性がある。、疾患: BCL10 の欠陥は、さまざまな種類の癌に関連している。、機能: NIK および IKK を介して、アポトーシス、プロカスパーゼ 9 の成熟、および NF- κ B の活性化を促進する。上流の TNFR1-TRADD-RIP 複合体と下流の NIK-IKK-IKAP 複合体間のアダプタータンパク質である可能性がある。MALT1 の基質である。、PTM: リン酸化されている。リン酸化により TRAF2 から解離し、BIRC2/c-IAP2 に結合する。、類似性: CARD ドメインを 1 つ含む。、細胞内局在: 核周縁性、コンパクトかつフィラメント状の発現パターンを示す。いくつかの種類の腫瘍細胞の核にも存在する。、サブユニット: CARD-CARD 相互作用によって自己会合し、MALT1 と強固な複合体を形成する。CARD9、CARD10、CARD11、CARD14 などの他の CARD タンパク質と相互作用する。C 末端ドメインでカスパーゼ 9 に結合する。TRAF2 および BIRC2/c-IAP2 と相互作用する。、組織特異性: 普遍的。、

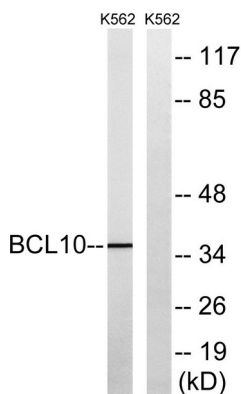
研究分野

T 細胞受容体;B 細胞抗原;

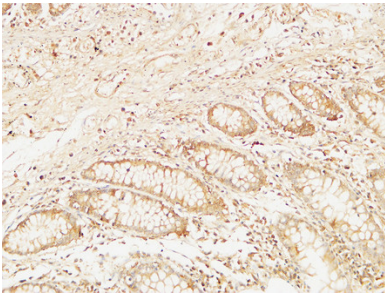
画像データ



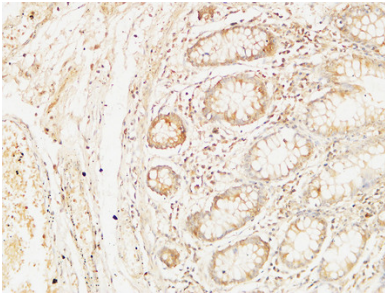
BCL10 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



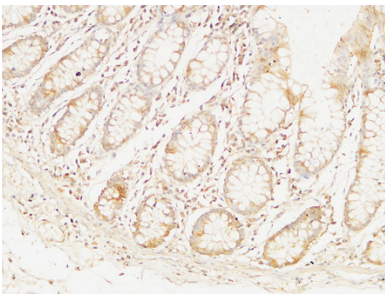
BCL10 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。